

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音4】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和7年12月10日（水）

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	(会場名) エリザベト音楽大学			
	(所在地) 広島県広島市中区鞆町4－15			
講 師 (肩書・氏名)	川上統（エリザベト音楽大学准教授） 三宅悠太（エリザベト音楽大学講師） 朴守賢（エリザベト音楽大学講師）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 オンライン ○	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	複合メディアコンテンツと音楽づくり／歌唱と器楽合奏指導のヒント		
研修内容の概要	① ICTを用いたメディアコンテンツと音楽づくりの理論と実践 ② 歌唱と器楽合奏指導のヒント		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(1)「歌唱」ア、イ、ウ、(2)「器楽」ア、イ、ウ、(3)「音楽づくり」ア、イ、ウ 〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	①ICT機器を使用して、絵や映像と音楽を結びつけた作品づくりの理論と実践を学びます。 ②歌唱・器楽合奏指導の要点を、実践的に学びます。		
到達目標	メディアコンテンツと音楽づくりにおけるICT機器の活用方法、歌唱・合奏指導の要点について理解し、豊かで多様な音楽教育を目指した授業展開や指導に活かせるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	オンライン/登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	複合メディアコンテンツと音楽づくり（川上）	オンライン
	12:00～13:00	昼食	オンライン
	13:00～15:00	器楽合奏指導のヒント（朴）	オンライン
	15:15～16:30	歌唱・合唱指導のヒント（三宅）	オンライン
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	iPadあるいはPC 身近にある簡単な楽器やminiキーボードなど		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： なし ○受講する上での環境条件等：インターネット接続が可能な場所		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小音5】

【分科会】小学校音楽科

【実施日】令和7年12月12日（金）

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	（会場名） 東京藝術大学 上野キャンパスアーツ&サイエンス ラボ 球形ホール			
	（所在地） 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 （肩書・氏名）	石上則子（元東京学芸大学准教授、元東京藝術大学非常勤講師）、中村栄宏（リコーダー奏者、東京藝術大学教育研究助手） 半野田恵（立川市立第三小学校主幹教諭）、祢津瑞紀（練馬区立練馬第二小学校主任教諭） 市川恵（東京藝術大学准教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員	参集 ○	40名
		（該当欄に○）	オンライン	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	リコーダーの魅力の再発見～器楽と音楽づくりとの関連を図りながら～		
研修内容の概要	本研修では、リコーダーを中心とした「器楽」と「音楽づくり」の相互の関連を踏まえた学習展開を、受講生一人ひとりが体験的に学ぶことを通して、学習指導の改善に資する視点や方法を習得することを目的とする。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(2)「器楽」ア、イ、ウ、（3）「音楽づくり」ア、イ、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	実践研修①では、講師による講義および実演を通じて、リコーダーの歴史、楽器の種類や構造、タンギングを含む基本的な奏法について学ぶ。実践研修②では、研修①の内容を踏まえ、教科書に掲載されている教材を実際に演奏しながら、自身の演奏技能の向上を図る。実践研修③では、リコーダーを活用した音楽づくりに関する実践提案を体験し、創造的な学習活動の在り方について学ぶ。あわせて、講師による実践報告を参照しながら、これらの研修内容を各学校の教育実践にどのように生かすかについて、グループワークを通して考察を深めていく。		
到達目標	1 「器楽」と「音楽づくり」の相互の関連を図った授業づくりについての知識や演奏に関わる技能を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 授業改善に向けて、「器楽」及び「音楽づくり」の指導法や教材分析の視点を多角的に考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修①	参集（講義）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:50	テーマ別実践研修②	参集（演習）
	14:00～16:00	テーマ別実践研修③	参集（演習）
	16:10～16:40	振り返り・質疑応答	グループワーク
	16:40～17:00	視学官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	ソプラノリコーダー、アルトリコーダー（持参可能な方のみ）、筆記用具		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、混雑が予想されます。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図4】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和7年12月8日（月）

担当大学名	金沢美術工芸大学			
会 場	(会場名) 金沢美術工芸大学			
	(所在地) 石川県金沢市小立野2丁目40番1号			
講 師 (肩書・氏名)	荒木恵信（金沢美術工芸大学・教授）（進行：桑村佐和子（金沢美術工芸大学・教授））			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	16名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	和紙と墨で擬音を連想させる独自の世界を描く
研修内容の概要	<p>本研修では小学校図画工作科における「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。」や「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。」ことに重点を置いた授業の展開について考える。具体的には、和紙の滲む場合と滲み止めをした場合の効果を利用して、墨でどのようなことができるのか試しながら、表れた形や色、奥行きや動きなどを基に自分のイメージをもち、擬音から連想される独自の世界を発想や構想をする。和紙と墨という素材の特性を使って児童の表し方の工夫を引き出し、創造性を高めることに繋がる授業の展開について考察する。</p> <p>[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：A表現（１）イ（２）イ B鑑賞（１）ア 【共通事項】（１）ア、イ</p>
内容と方法	<p>まず、和紙と墨という素材を用いて、これまでの作家がどのように工夫して表現してきたかについて講義するとともに、水墨画や日本画の作品を鑑賞し、そのことを確認する。</p> <p>次に、実際に和紙と墨という材料を確かめる。具体的には、①墨を硯ですりおろして墨汁をつくる、②滲む和紙の効果を利用した図を描く、③これにドーサ液を塗って滲み止めを施す、④滲まなくなった和紙に加筆して完成させる、⑤和紙や墨、ドーサ液など、それぞれの効果を理解した上で、これらを応用して独自の世界の創造を目指す。</p> <p>最後に、図画工作科での授業展開についてアイデアを出し合い、今回の体験の振り返りを行う。</p>
到達目標	<p>①日本絵画に古くから用いられている和紙と墨、筆、滲み止めのためのドーサ液の効果について理解する。</p> <p>②線描や滲み、たらし込みについて実践を通して理解する。</p> <p>③擬音から独自の世界を想像することで、現実の風景や既存の概念などから離れて、新たな価値観の創造を相互に認め合う。</p> <p>④それぞれの学校の実態に合わせた授業計画を立てることができる。</p>

（次ページへ続く）

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別）	参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講義：和紙と墨という素材と表現	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	演習：和紙と墨という素材とそれを用いた表現技法（実技）	各自作業
	14:10～16:10	演習：擬音を連想させる独自の世界の創造（実技・鑑賞）	各自作業
	16:10～16:40	演習：授業への応用の可能性	グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	お持ちであれば、硯と墨（墨汁は不可）及び、筆や刷毛。お持ちでなければ大学のものを使用できます。		
特記事項	○資料の配付方法：研修会当日配付 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図5】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和7年12月12日（金）

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学 (瀬名キャンパス)			
	(所在地) 静岡県静岡市葵区瀬名1丁目22-1			
講 師 (肩書・氏名)	1部：保育学部教授 三原信彦 2部：教育学部教授 長橋秀樹			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	幼小の連携についての理解と実践力の向上
研修内容の概要	1部：“遊びの概念” 幼児期の遊びについて 2部：五領域の理解幼児教育の概要を抑えながら、主に幼児の描画活動の発達を理解する。子どもの描画についての基本的理解を深める為のワークショップを体験する。
	[学習指導要領との関連]図画工作科で低学年から高学年へと拡張されてきた「造形遊びをする活動」について、その内容を理解し、実践力を養う。
内容と方法	1部： ○幼児教育の概要、教育・保育要領解説（平成30年）幼保連携型こども園を基に「満3歳以上の園児の教育に関するねらい及び内容」（5領域の理解）、幼児の造形と「遊び」への考察、発達と幼児期の「遊び」の概念と環境。本解説は〔共通事項〕ア・イに対応している。 ○日本美術・絵画の鑑賞のしかた。本考察は「B鑑賞」（1）鑑賞に関する項目アに対応している。 ○ワークショップ水墨画を描く～「墨から生まれる世界」、本ワークショップは「A表現」（1）発想や構想に関する項目イ、（2）技能に関する項目イに対応している。 2部： ○子どもの描画発達についての考察—幼児から児童・生徒までの記録をパワーポイントで解説。本考察は「B鑑賞」（1）アに対応している。 ○人物クロッキー：鉛筆を使用したワークショップ—8つ切り画用紙を支持体に鉛筆で多様な描画の在り方を実践を通して、理解を深める。本ワークショップは「A表現」（1）発想や構想に関する項目アに対応している。 ○「造形遊びをする活動」と「絵や立体工作に表す活動」の構造的理解—小学校学習指導要領解説図画工作科編を基に「造形遊びをする活動」と「絵や立体工作に表す活動」双方の本質的な差異について考察する共に、現行教科書に掲載されている具体的事例を参照しながら実践に即した理解を深める。本解説は「A表現」（1）発想や構想に関する項目ア及びイ、「A表現」（2）技能に関する項目ア及びイに対応している。それぞれの項目については、専門講師が担当するオムニバス形式であり、他の講師は実技補助により個別指導を行う。
到達目標	幼児教育における「遊び」の概念と子どもの描画についての理解を深め、指導者自身の絵に表す活動における指導の向上を目的としている。

（次ページへ続く）

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	3号館1階3104教室
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	研修プログラム及びタイムテーブルの説明（10分）・幼児教育の概要	参集 3104教室
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	現行教科書記載内容の実践と考察	参集 3104教室
	14:00～15:30	子どもの描画発達についての考察（レジュメ配布）	各自活動
	15:30～17:00	鉛筆を使用したワークショップ	グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	・通常の筆記用具等		
特記事項	○資料の配布方法：当日、紙媒体で配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：特になし		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図6】

【分科会】小学校図画工作科

【実施日】令和7年12月12日（金）

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	前半(実技):末永史尚教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 末永史尚教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	絵に表す活動と関連した環境に関わる高学年の造形遊び
研修内容の概要	<p>身の回りの環境の中で感じたことに対して表現活動を行う高学年の造形遊びを行います。この活動は絵に表す活動とリンクしており、高学年の造形遊びのねらいや意図がより深まります。資質・能力の育成の観点では日常的に過ごす空間に変化を与えることを通して主に思考力、判断力、表現力等について高めていきます。</p> <p>まず始めに自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものなのか造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方を理解し、どのように環境と関わっていくか事例を見ながら理解していきます。次に絵に表す活動からそれらを分解し空間に再構成していきます。これら一連の活動を通して高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない場所や空間を生かした造形遊びの考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。</p> <p>[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：第5学年及び第6学年 A表現(1)ア(2)ア B鑑賞(1)ア〔共通事項〕(1)ア、イ</p>
内容と方法	<p>前半 実技講習 末永史尚教授 石賀直之教授 1) 場所や空間の概念やその特徴の気付き方、場や空間の変容の意味や価値、絵に表す活動から広がる発想について理解する。 2) 大学内の様々な空間を生かし、造形活動を行う。 3) 互いの活動を見ながら振り返りを行う。</p> <p>後半 理論講習 石賀直之教授 末永史尚教授 1) 前半の実技講習と学習指導要領の関連について理解する。 2) 高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う</p>
到達目標	<p>○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。</p> <p>○絵に表す活動と環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。</p> <p>○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。</p> <p>○高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方について理解する。</p>

(次ページへ続く)

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	参集/動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:15	講義及び実技：環境を生かした造形活動の事例と絵に表す活動の実際	参集
	12:15～13:15	昼食	
	13:15～14:45	実技：環境と関わりながら絵を素材に空間に再構成していく	グループワーク
	14:45～15:30	実技：講評会	参集
	15:45～16:00	講義：学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連	グループワーク
	16:00～16:30	実技 グループワークによる題材作成	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	参集
教材・持ち物等	受講会場で配布いたします。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： なし ○受講する上での環境条件等： 学内の様々な場所で活動しますので動きやすい服装で参加して下さい。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【小図7】
【分科会】 小学校図画工作科 **【実施日】 令和7年12月12日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	岩瀬大地 教授 小林貴史 教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	12名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	つくり、つくりかえ、つくる 自然と造形のあわいにある学びの姿		
研修内容の概要	図画工作科の授業では、日頃から様々な材料に触れ、そこから発想を広げ自らの表現へとつなげています。そこには材料を対象化して客観的に扱うということだけではなく、材料や活動からの多くの気づきが児童の成長へとつながる豊かな活動をもたらしていることを私たちは知っています。いま、学校教育のさまざまな場面において「持続可能な開発のための教育」を行うことが求められています。このことはまた、図画工作科の学習においても持続可能な社会を実現していくための一役を担うことが期待されているということです。本研修では、サステナビリティ（持続可能性）の理念への理解とともに、実践研修を通して、自然としての材料と造形活動との関係がどのように学びを支え、そこに生まれるコミュニケーションの場が児童の自己形成を深めていくかについて考えていきます。		
	[学習指導要領との関連] 小学校図画工作科：「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕（1）ア、イ		
内容と方法	里山の中に入り、自然と身体とのかかわりを感じ取ります。そして、学内の植物を採取し、切り、煮て、たたき、分解したものを漉きながら成形し、新たな形を生み出すことから自然と造形の動的な関係を確認していきます。 また、実技研修での体験をもとに、図画工作科の授業としてつくり、つくりかえ、つくるという活動を通して児童が自らの変容を自覚し、自己形成へとつなげる授業をグループごとに構想します。そして、図画工作科の学びにおいて大切にしたいことを共有していきます。		
到達目標	学校や地域の実態に応じて、材料とのかかわりや造形活動を通して持続可能な社会づくりへと目を向けていくとともに、児童自らの自己形成へとつながる授業づくりを構想する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集/動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）・自然と身体 植物の採集	屋外での実践
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）・材料づくり 漉き、成形	制作活動
	15:00～15:10	休憩・会場移動	
	15:10～16:30	授業づくりの検討 ・つくり、つくりかえ、つくることにある自己形成	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	

（次ページへ続く）

教材・ 持ち物等	エプロンや汚れてもよい服装、靴の準備
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○事前・事後課題の有無：無し</p> <p>○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）</p>

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音4】

【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）

【実施日】令和7年12月8日（月）

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 上野キャンパスアーツ&サイエンス ラボ 球形ホール			
	(所在地) 東京都台東区上野公園 1 2 - 8			
講 師 (肩書・氏名)	田中多佳子（京都教育大学名誉教授、元東京藝術大学非常勤講師） 市川恵（東京藝術大学准教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	音楽の多様性への気付き：北インド古典音楽を題材として			
研修内容の概要	本研修では、北インド古典音楽を中心として、「世界の諸民族の音楽」を題材とした授業展開の可能性や課題を探究するとともに、具体的な実践提案を体験することを通して、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。			
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科： 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(3)「創作」ア、イ(ア)(イ)、ウ、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(3)「創作」ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／「A表現」(3)「創作」ア、イ、ウ、「B鑑賞」(1)「鑑賞」ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)(エ)、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	実践研修①では、講師による講義を通じて、北インド古典音楽の概要について学ぶ。実践研修②では、①の内容を踏まえ、「鑑賞」と「創作」の相互関連を図った実践提案を体験し、教材化の視点や指導の在り方について学ぶ。実践研修③では、中学校での実践報告を参照しながら、これらの研修内容を各学校の教育実践にどのように生かすかについて、グループワークを通して考察を深めていく。			
到達目標	1 「世界の諸民族の音楽」を題材とした授業づくりについての知識を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 「世界の諸民族の音楽」の指導法や教材化に関して多角的に考察することができる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集/登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修①		参集（講義）
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:50	テーマ別実践研修②		参集（演習）
	14:00～16:00	テーマ別実践研修③		参集（演習）
	16:10～16:40	振り返り・質疑応答		グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	鍵盤ハーモニカ（持参可能な方のみ）、筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：学内に学食はございますが、混雑が予想されます。			

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音5】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和7年12月9日（火）**

担当大学名	公立大学法人 沖縄県立芸術大学			
会 場	（会場名） 沖縄県立芸術大学（首里当蔵キャンパス 音楽棟4階41講義室）※教室が変更になる場合があります。			
	（所在地） 〒903-8602 沖縄県那覇市首里当蔵町1－4			
講 師 （肩書・氏名）	・教 授 山内 昌也（琉球古典音楽・野村流）※音楽学部長兼音楽芸術研究科長 ・教 授 仲嶺 伸吾（琉球古典音楽・安富祖流） ・准教授 新垣 俊道（琉球古典音楽・野村流）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	沖縄の伝統音楽の楽しみ方・考え方 ～歌三線から沖縄の伝統音楽の特徴と魅力を探る～			
研修内容の概要	<p>日本の最南端に位置する沖縄県は、かつては「琉球」と称されていた。1429年から1879年までの間、約450年にわたり王政の国家を形成し、中国や東南アジア諸国、日本との外交・貿易を通して海洋国家として発展してきた。諸外国との外交や交易をするなかで、様々な芸術や文化も移入しており、それらをもとに独自の文化を築いてきた。このような歴史的背景のなかで育まれてきた琉球古典音楽や民謡には、沖縄の人々の「思い（ウムイ）」が深く込められており、沖縄戦直後は多くの傷ついた人々の心を慰め復興の大きな原動力となり、移民先においても同様に多くの人々に安らぎを与えたとされている。</p> <p>本研修は実技研修を通して、沖縄の伝統音楽のよさや特徴を学ぶだけではなく、三線をはじめ三線音楽が歩んできた歴史的背景を学び、郷土の伝統音楽の存在意義や価値を考える。併せて郷土の伝統音楽に愛着を持たせるには、どのような指導法や工夫が必要かを考える。</p> <p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校音楽科： 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)、ウ(ア)、(2)「器楽」ア、イ(ア)、ウ(ア)、 「B鑑賞」(1)ア(ウ)、イ(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)、ウ(ア)、(2)「器楽」ア、イ(ア)、ウ(ア)、 「B鑑賞」(1)ア(ウ)、イ(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p> <p>音楽Ⅲ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ、(2)「器楽」ア、イ(ア)(イ)、ウ、 「B鑑賞」(1)ア(ウ)、イ(イ)(ウ)(エ)、〔共通事項〕(1)ア、イ</p>			
内容と方法	<p>1 講義 ・琉球・沖縄の歴史と伝統音楽について ・三線の構造、楽譜（工工四）、琉歌（歌詞）について</p> <p>2 鑑賞 ・琉球古典音楽の鑑賞（歌三線の独唱・斉唱）</p> <p>3 実技研修 ・歌三線の実技研修</p> <p>三線の初歩的な扱い方と弾き方、工工四（楽譜）の読み方について学び、沖縄の代表的な童歌「ていんさぐの花」と、琉球古典音楽を習い始めに取り組む「安波節」の実技を学ぶ。受講者の演奏レベル、または習得状況によっては琉球古典音楽「かぎやで風節」も取り上げる。</p>			
到達目標	<p>①独唱で「ていんさぐの花」と「安波節」の演奏技能を身に付ける。</p> <p>②実技研修、演奏や鑑賞を通して沖縄の伝統音楽のよさや特徴を理解する。</p> <p>③三線をはじめ、三線音楽が歩んできた歴史的背景を学び、伝統音楽の存在意義や価値を理解する。</p> <p>④郷土の伝統音楽に愛着を持たせるための指導法や工夫を探究する。</p>			

（次ページへ続く）

スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部） 「1、講義」 「3、実技研修」・三線の初歩的な扱い方と弾き方、工工四（楽譜）の読み方について	参集（講義・演習）
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）「3、実技研修」	参集（演習）
	15:00～15:15	休憩	
	15:15～16:30	琉球古典音楽鑑賞及び成果発表会 「2、鑑賞」「3、実技研修」	参集（鑑賞・演習）
	(※)16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	・筆記用具 ・三線やバチは大学で用意しますが、持参できる方は持参してください。		
特記事項	○教材・資料の配布方法：当日会場にて配布します。 ○事前・事後課題の有無：特になし ○受講する上での環境条件等：学食が利用できます。また、近隣に飲食店（沖縄そば、カレー、定食など）やコンビニはあります。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高音6】
【分科会】中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） **【実施日】令和7年12月10日（水）**

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	(会場名) エリザベト音楽大学			
	(所在地) 広島県広島市中区幟町4－15			
講 師 (肩書・氏名)	松波匠太郎（エリザベト音楽大学講師） 三宅悠太（エリザベト音楽大学講師） 壬生千恵子（エリザベト音楽大学講師） 大迫知佳子（エリザベト音楽大学准教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員	参集	50名
		（該当欄に○）	オンライン ○	

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	授業展開と指導実践のヒント～教科等横断的な学び、歌唱・合唱指導のポイント、ICTを活用した音楽づくり～			
研修内容の概要	①音楽の授業を中心とした美術科等を視野に入れた教科等横断的な学びの可能性 ②アナリゼと演奏実践から拓く豊かな音楽表現（歌唱・合唱） ③ICTを用いた音楽づくりの理論と実践（基礎から展開まで）			
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科： 第1学年、第2学年及び第3学年／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、(3)「創作」ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科： 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ／「A表現」(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、(3)「創作」ア、イ、ウ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ／(1)「歌唱」ア、イ(ア)(イ)、ウ、(3)「創作」ア、イ、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	①音楽の授業を中心とした領域横断的な学びの可能性を、理論・実践例をもとに理解する。 ②豊かな表現のための演奏指導法を、歌唱・合唱の各分野の実践例をもとに理解する。 ③ICT機器等を使用した「音を音楽へと構成する」活動の活用方法や動向についての基本を理解する。（音楽創作アプリ：Garage Band、カトカトーンなど）			
到達目標	①音楽科の授業における教科等横断的な学びの可能性について理解し、授業・指導実践に援用できるようになる。 ②豊かな表現のための演奏指導法を、歌唱・合唱分野の実践例をもとに活用できるようになる。 ③音楽づくりにおけるICT機器の使用方法を実践的に知ることを通して、豊かで多様な音楽教育を目指した授業展開や指導に活かせるようになる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		オンライン（講義）
	10:45～11:00	休憩		
	11:00～12:00	音楽を活用した領域横断的学び（壬生・大迫）		オンライン（講義）
	12:00～13:00	昼食・休憩		
	13:00～15:00	歌唱・合唱指導の探究（三宅）		オンライン（演習）
	15:10～16:30	ICTによる音楽創作（松波）		オンライン（演習）
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		オンライン（全体講評・振り返り）
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	iPadあるいはPC 身近にある簡単な楽器など			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：インターネット接続が可能な場所			

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美7】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）

【実施日】令和7年12月9日（火）

担当大学名	女子美術大学			
会 場	（会場名） 女子美術大学 相模原キャンパス			
	（所在地） 神奈川県相模原市南区麻溝台1900			
講 師 （肩書・氏名）	藤田百合（女子美術大学 准教授）、高橋智子（女子美術大学 准教授）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	鑑賞補助ツールを活用した鑑賞教育			
研修内容の概要	美術館の様々な鑑賞補助教材を体験してもらい、それらを活用した鑑賞の授業展開を考える。また、学習指導要領の改訂のポイントも踏まえて、美術館と連携した鑑賞授業について検討する。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科： 「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科： 美術Ⅰ／「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)ア、イ 美術Ⅱ／「B鑑賞」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ) 〔共通事項〕(1)ア、イ 美術Ⅲ／「B鑑賞」(1)ア(ア)、イ(ア) 〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	美術館には生徒が能動的に鑑賞するためのきっかけとなる教材がある。研修では美術館での鑑賞教材を複数紹介し、体験してもらい美術館の鑑賞補助教材について知見を深めてもらう。さらに、体験から得られた気づきから、今後の鑑賞の授業について検討を行う。美術館に行く前の事前授業として鑑賞補助教材を活用することだけでなく、地理的条件などから美術館にアクセスが難しい場合など、美術館に行くことができなくても美術館の鑑賞教材を活用することで美術館と連携した鑑賞の授業展開についても検討していく。			
到達目標	・美術館の鑑賞補助ツールについて知見を広め、美術館と連携した鑑賞の授業展開を構想する。 ・学習指導要領の改訂のポイントに沿った鑑賞授業について理解を深める。			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		参集/登壇
	10:45～11:00	休憩		
	11:00～12:00	「鑑賞教材」を使用した取組の紹介		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:40	「アートカード」を使った鑑賞と解説		参集
	14:50～15:00	休憩		
	15:00～16:30	「鑑賞教材」の活用方法と授業づくりの検討		グループワーク
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：無			

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美8】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）

【実施日】令和7年12月11日（木）

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	（会場名） 京都市立芸術大学			
	（所在地） 京都市下京区下之町5 7 番 1			
講 師 （肩書・氏名）	美術学部 美術研究科 油画専攻 講師 唐仁原希 美術学部 共通教育 教職担当 教授 飯田真人			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	京芸の油画～京芸の油画基本実習から指導方法を学ぶ～		
研修内容の概要	<p>中学校美術や高等学校芸術（美術）の担当教員は様々な専門分野の出身者があり、油画専攻以外の出身で油彩画の指導に不安をもっている教員もおられると思います。特に高等学校では油彩画の作品制作を指導する機会が多くあり指導の充実が求められます。</p> <p>本学の入学試験の実技では専攻別ではなく、全専攻同じ課題（デッサン、色彩、立体）で選抜を行なっています。入学後に全員総合基礎実技を経て実技専攻を選択するため油画専攻で初めて油彩の作品制作をする学生も少なくありません。そのため油画基礎では、油絵の具の基本からさまざまな技法や表現方法を基礎から学びます。油彩画を専攻していた教員も含めて本学の油彩画の基本と実技指導に触れていただき、今後の指導方法に活用してください。また、油彩画の見本を活用した鑑賞活動の充実についての講義も行います。</p>		
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ) B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ) 〔共通事項〕(1)アイ</p> <p>高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、 B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ) 〔共通事項〕(1)アイ</p>		
内容と方法	<p>午前の飯田の講義では、鑑賞活動の際、材料や表現方法を基にした見本に触れながら鑑賞することで感覚を通した実感を伴った鑑賞方法についてお話しします。</p> <p>午後からは、唐仁原から本学の油画専攻の説明と油彩画の基本について講義したのち、実際に油彩絵の具やオイル、下地等を使用して様々な表現方法を試し、油彩画の題材の参考となる作品を作成します。</p>		
到達目標	油彩画の豊かな表現を知るとともに生徒が感覚を通して油彩画に触れ、実感的な理解を深められる表現や鑑賞の授業が行えるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（平田調査官）	参集/登壇
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	講義「感覚に触れる鑑賞指導」（飯田）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:30	講義「京芸の油画基礎」（唐仁原）	参集
	13:30～14:45	実技「油彩画の基本～油絵具とオイル～」（唐仁原）	参集
	14:45～15:00	休憩	
	15:00～16:30	実技「油彩画の基本～技法編～」（唐仁原）	参集
	16:30～16:40	休憩・準備	
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	現在学校等で授業を担当されている先生は使用している教科書を持参してください。		
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○事前・事後課題等はありません。</p> <p>○油彩絵の具を使用して制作活動を行いますので作業しやすい服装をご準備ください。（更衣室もあります。）</p> <p>○昼食会場として学生食堂をご利用いただけますが、混雑している可能性があります。</p>		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美9】

【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術）

【実施日】令和7年12月12日（金）

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	（会場名） 武蔵野美術大学鷹の台キャンパス16号館/美術館・図書館他			
	（所在地） 東京都小平市小川町1-736			
講 師 （肩書・氏名）	工芸工業デザイン学科教授・山中一宏 教職課程研究室教授・三澤一実			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （該当欄に○）	参集 ○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	「座るかたち」			
研修内容の概要	本プログラムでは、『座る』という日常的な行為に改めて注目し、その身体的・心理的側面、また文化的・歴史的背景を踏まえながら、多角的に考察します。さらに、私たちが生活する環境の中にどのような『座る場』が存在しているのか、それらがどのように人々のふるまいや関係性に影響を与えているのかを探ります。造形や空間デザインの視点も取り入れながら、『座るかたち』の可能性を実践的に考える機会とします。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術：A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ).イ(ア)、〔共通事項〕ア.イ 高等学校芸術（美術）：A表現(2)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)〔共通事項〕ア.イ			
内容と方法	『座るための形』をデザインすることを通じて、創造的な発想から具体的な計画へと至るプロセスを学びます。参加者は、紙や角材を使い、1/5スケールのモデルを各自3点制作することを目指し、実際のデザイン制作を通じて形状や機能性を探求します。この過程において、アイデアを形にするための思考法や手法を体得するとともに、デザインの背後にある意図やコンセプトの重要性を理解します。 また、デザインを進める段階では、美術館に所蔵された近代椅子コレクションを参照し、椅子の素材選び、構造、そしてその造形がどのように発想に影響を与えているかを学びます。ただし、これらの名作はあくまで過去の優れた例として参考にとどめ、参加者にはその影響を過度に受けることなく、既存の枠にとらわれない自由で柔軟な発想をもって、自身の独自の『座るかたち』を生み出していだきたいと考えています。このように、理論と実践の両面からデザインを学びつつ、創造性を最大限に引き出すことを本研修の目標とします。			
到達目標	①座るという目的をもって『座るための形』を構想することができる。②扱う材料の特性を生かした発想や構想ができる。③各デザインの主題（意図やコンセプト）を生かし、工夫して形に表すことができる。④近代椅子コレクションや制作したモデルを鑑賞し見方や感じ方を深めることができる。 上記の①～④の資質・能力と〔共通事項〕が育めるよう指導について考えることができる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集／動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	美術館にて名作椅子コレクション見学（午前の部）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:15	講師自己紹介・制作に関する説明（午後の部）		参集
	13:15～14:45	制作(適宜休憩を入れる)		各自作業
	14:45～16:15	発表・講評		講評
	16:15～16:45	作品写真撮影		
	16:45～17:00	全体講評・振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		

（次ページへ続く）

教材・ 持ち物等	はさみ・カッターナイフ
特記事項	<input type="radio"/> 資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード <input type="radio"/> 事前・事後課題の有無：無し <input type="radio"/> 受講する上での環境条件等：無し

令和7年度 芸術系教科担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美10】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】令和7年12月12日（金）**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	（会場名） 東京造形大学			
	（所在地） 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 （肩書・氏名）	准教授・若見 ありさ（アニメーション専攻） 教授 ・山田 猛 （教職課程）			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 （いずれか該当 する欄に○）	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	アニメーション制作及び比較文化的視点を取り入れた鑑賞		
研修内容の 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クレイアニメによるリレーアニメーション制作の実際を体験し、制作や鑑賞を通して参加者同士で鑑賞や指導法についての協議を行う。 ・同じ対象を扱ってもデザインやキャラクターが異なる比較文化的な視点を取り入れることにより、問いを生み、新たな視点からの深い文化理解への学びへと導くアプローチを探る。 		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞 (1)ア(ア) イ(イ) 、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(3)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) B鑑賞 (1)ア(ウ)イ(イ) 、〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・油粘土によるクレイアニメを受講者によるリレーアニメーションとして制作する。 ・同じ対象を扱ってもデザインやキャラクターが異なる比較文化的な視点を取り入れることにより、新たな視点からの問いを生み、深い文化理解への学びへと導く鑑賞のアプローチを探る。 ・制作や鑑賞を通して、造形的な見方・考え方を働かせることについて再考し、参加者同士で鑑賞や指導法についての理解を深める。 		
到達目標	アニメーション制作及び比較文化的視点を取り入れた鑑賞を通して、美術文化について見方や感じ方を深める学びへと導くアプローチを探る。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：文化庁教科調査官による発表）	参集 / 動画視聴
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	オリエンテーション、レクチャー①、制作活動導入	参集 / 受講
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:45	演習①制作	参集 / 制作
	14:45～15:00	レクチャー②	参集 / 受講
	15:00～16:40	演習②制作	参集 / グループワーク
	16:40～17:00	振り返り	参集 / 全体
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	筆記用具、エプロン等		
特記事項	○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○事前・事後課題の有無： 無 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。		

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中高美11】
【分科会】 中学校美術科・高等学校芸術科（美術） **【実施日】 令和7年12月12日（金）**

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学瀬名キャンパス			
	(所在地) 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名川1丁目22番1号			
講 師 (肩書・氏名)	准教授・磯崎えり奈			
対 象	中学校美術科, 高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	粘土による手の塑造 一仕草から考える瞬間の美しさー			
研修内容の概要	人の仕草を捉え、どの瞬間を表すのか、どのように空間に構成するのかということを考えながら塑造による制作を行う。また、塑造作品などについて鑑賞し、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫、手の骨格の特徴などについて考える。粘土で手や人物などをつくる際には心棒を用いることが多いが、この授業では地山をつくり、手と構成することで心棒を使用しない塑造作品を制作する。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ			
内容と方法	<p>内容：</p> <p>人の仕草を捉え、どの瞬間を表すのか、どんなポーズで空間に構成するのかということを考えながら土粘土を用いて手の塑造を行う。また、粘土の特徴や種類についても触れながら、塑造作品について鑑賞し、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫、手の骨格の特徴などについて考える。対象となる手の観察と把握をもとに、制作の過程を通じて動き・バランス・量感・塊・質感・空間等の要素についても理解を深めていく。塑造は心棒などを用いて制作することが多いが、この授業では地山をつくることで、心棒を使用しない塑造作品を制作する。手と地山との構成や効果についても考えたい。</p> <p>方法：</p> <p>①人の動きや仕草を意識しながら、画材や粘土を用いて手のクロッキーを行う。</p> <p>②粘土の特徴や種類、手の特徴や骨格について確認し、塑造作品などについて鑑賞を行う。</p> <p>③土粘土での塑造を行う。</p> <p>④全員で作品を発表し、鑑賞と振り返りを行う。</p>			
到達目標	<p>塑造制作と鑑賞を通して、人体の骨格や特徴を考え、塑像について表現の特質を理解する。</p> <p>粘土という素材についての特徴や種類、素材に触れることでの感情にもたらす効果、立体の特徴である空間についての意識、量感・塊・質感などについて理解することで表現の幅を広げ思考を深めたい。</p>			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		3号館1階3104教室
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）		参集／登壇
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		説明とクロッキーなど
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:50	テーマ別実践研修（午後の部）		画像等を用いた鑑賞
	13:50～15:00	制作 荒付け（動き・バランス・量感・塊・質感・空間等）		粘土の荒付け
	15:00～16:40	制作 作品の仕上げ 全体の把握 鑑賞 振り返り		作品の仕上げ 鑑賞
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り		全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了		

（次ページへ続く）

教材・ 持ち物等	作業着やエプロンなどの汚れても良い服装、スニーカーなどの作業靴。
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○事前・事後課題の有無：特になし。</p> <p>○受講する上での環境条件等：長時間立って制作を行う。</p>

令和7年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容【中美高工3】
【分科会】中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） **【実施日】令和7年12月12日（金）**

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学瀬名キャンパス			
	(所在地) 〒420-0911 静岡県静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 (肩書・氏名)	教授・山本浩二			
対 象	中学校美術科，高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (該当欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	さまざまな焼き方にチャレンジする変則陶芸のすすめ
研修内容の概要	陶芸やガラスはもちろん、金工でも鋳型の焼成や地金の溶解では熱を扱う。工芸においては熱が重要な役割を果たすことが少なくない。通常の焼き方ではなく様々な焼成方法を用いてちょっと変わった作陶を行い、意外な景色を生み出す高温の世界を体験する。
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科：A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ</p> <p>高等学校芸術科（工芸Ⅰ）A表現(1)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ</p>
内容と方法	<p>内容：</p> <p>楽焼きをはじめとする陶芸の様々な焼成方法を通して、土器を焼く野焼き体験とは一味違った陶芸体験を行う。具体的には1日で作って焼き上げる生がけによる楽焼き、数百℃で平滑な表面に表情を出すピットファイアリング(地面の穴で焼くという意味)、本焼きからの引き出しなどを通して様々な焼成体験を行う。その過程で高温の世界がもつ色と温度の関係についてレクチャーを行う。本焼きからの引き出しについては事前に粘土を郵送して自宅で制作し乾燥させたオブジェ、または器を送り返してもらい、大学にて施釉し本焼きまで終わらせた状態で研修を迎える。</p> <p>方法：</p> <p>①説明。耐火度の高い粘土を用いて薄く造形する（30分）</p> <p>②ドライヤーで乾燥（30分）</p> <p>③楽焼き窯、ピットファイアリングのためのコークス炉点火 生がけによる施釉（20分）</p> <p>④木炭から加熱し、コークスで温度を上げる。楽焼き窯で引き出しを行う。引き続き1000℃まで昇温し、本焼きからの引き出しを行う。（150分）</p> <p>⑤ピットファイアリング取り出し（30分）</p> <p>⑦鑑賞 作品を鑑賞する(20分)</p> <p>⑧調査官による全体振り返り(20分)</p>
到達目標	陶芸の焼成における窯の仕組みを理解するとともに800℃での素焼き（楽焼き）と、1200℃以上の高温による焼成の違いについて体験する。また、高温の状態からの引き出しを行うことで還元と酸化による表情の違いを体得することができる。

（次ページへ続く）

スケジュール	実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付	3号館1階3104教室
	9:30～10:45	開講式・理論研修（教科・科目別：教科調査官）	参集／登壇 2103教室
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集 2102教室
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～16:40	テーマ別実践研修（午後の部）	参集 2102教室
	13:00～16:20	各自作業	
	16:20～16:40	作品鑑賞	
	16:40～17:00	調査官による全体講評・振り返り	全体講評・振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	ビットファイアリングで作品と一緒に焼いてみたいもの（例：海藻、針金、藁など） 作業着（長袖、長ズボン、くるぶしが隠れる靴下、綿素材が望ましい）スニーカーなどの作業靴		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：事前に郵送された粘土を用いて同封の箱に入るサイズの作品を制作、乾燥のうえ、12月6日までに返送する。 ○受講する上での環境条件等：工房では換気が良くなるようドアを開け放しているため気温が低い。そのため、防寒できる物を着用すると良い。		